



バッハの森通信

第 129 号
2015 年
10 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

記念する心

「過去」を学ばば「未来」が開ける

今年は戦後 70 年、特に 8 月 15 日の終戦記念日前後には、いろいろな人が戦争体験を聞かせてくださいました。それにつられて、私も中学生だった当時のことを思い出しました。本当に戦火や空襲をくぐり抜けた人たちの体験に比べれば、何ということのない話なのですが、それでも、普段忘れていた日々を振り返ってみると、よくぞ生き延びたな、という感慨と、自力で生きてきた気になっていたけれど、実は母親を始め多くの人たちに護られ、助けられたお陰だったということが今頃になって分かりました。

このように、普段忘れていた「過去」を思い出してみても、ああそうだったのか、と分かることがよくあります。要するに、私たちは「現在」を生活していますから、「未来」については考えますが、案外「過去」のことは忘れていきます。「現在」生きるのに精一杯で、「過去」のことを思い出している暇がないからでしょう。しかし、「学ぶ」という行為は、「過去」に照らし合わせて「現在」の自分を検証し、「未来」の計画を立てることではないでしょうか。

* * *

30 代、40 代の 10 数年間、エルサレムに留学していたとき、毎年、ユダヤ人の友人の誰かが一年で最も重要な祭りである「過越祭」の晩餐会に招待してくれました。勿論、有り難くご招待を受けましたが、最初は、どの家庭でも、ご馳走が出る前にユダヤ民族の始まりを語る物語、「ハガダー」を、延々と読み聞かされるのには面食らいました。

過越祭の晩餐会は、家族全員で祝う正餐です。そこで、「ハガダー」の朗読が始まる前に、先ず家族で最年少の男の子が、「今夜はいつもの夜と何が違うの？」と聞くことになっています。すると家長である父親が、「私たちはエジプトでファラオの奴隷だった。しかし、主なる神が私たちをそこから救い出してくださいました。もし神が救い出してくださらなかったら、今でも

私たちはエジプトで奴隷にされていたろう」と読み始め、長々とエジプト脱出の物語を朗読します。

それにしても、ユダヤ人の先祖がエジプトを脱出した事件は、今から 3000 数百年前に起こった出来事です。たった 70 年前の終戦の記憶が風化し始めている日本人には、理解しがたい話でしょう。ただし、3000 年以上たっても、エジプト人を執念深く恨むことを勧めているわけはありません。自分たちが「現在」存在しているのは、3000 数百年前に神が救い出してくれた「過去」の出来事を「学び」、感謝することによって「未来」が開けると教えているのです。

エジプト人の奴隷からの救い、という歴史的事件を、罪からの救い、と普遍的に解釈したキリスト教徒が、過越祭を復活祭に代えました。それでも「現在」自分が存在しているのは、「過去」に神に救われたお陰だ、という理解は変わっていません。

* * *

今年、創立 30 周年を迎えたバッハの森で、創立当時のことを調べる必要が生じ、1987 年 4 月 20 日発行の『バッハの森通信』第 15 号の巻頭言を読み返してみました。すると、建築後 2 年たって、ようやく各建物に銘板をつけることになり、その際に奏楽堂を「バッハの森記念奏楽堂」(BACH GROVE MEMORIAL MUSIC HALL)と名付けた理由が次のように説明されていました。

《50 年以上も生きてみて、つくづく思うことは、よくもこれほどいろいろな方々のお世話になって来たなということです。…しかも受けたこれら全てのことに対して支払った記憶がありません。要するに“ただ”でもらったものばかりなのです。…今更お礼をする力もない以上、せめて皆様のお陰で「バッハの森」は建ちました、という思いを表現したくて、それが「バッハの森記念奏楽堂」という名称になりました。皆さんもそれぞれの“記念”を持ち寄って、「バッハの森記念奏楽堂」の“記念”に加えてください。「バッハの森」は“ただ”でもらったことを“記念”する心が集まる場所でありたいのです。》 (石田友雄)

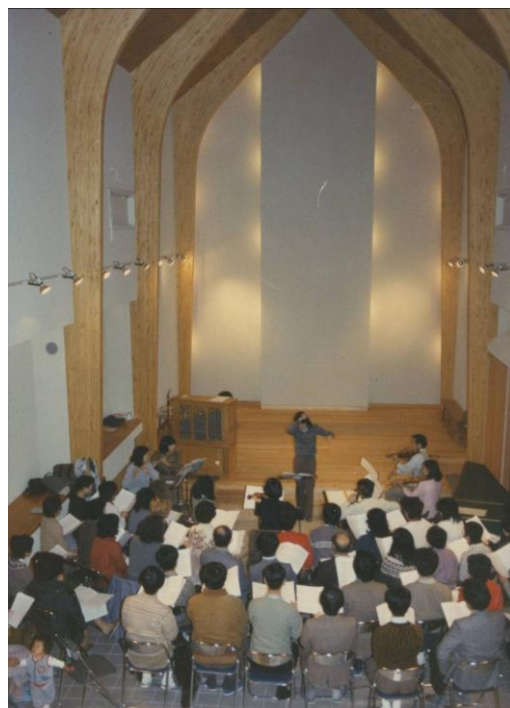
写真で綴る バッハの森の30年 1985～2015

(敬称略)

共同創立者
石田友雄と一子



最初の合唱・合奏練習
指揮：田崎瑞博 1984.12.11



コミュニティーセンター・奏楽堂
建設工事 1984.5.26～1984.12.4



ハンドベル・クワイア



幼児の音あそび



完成したバッハの森全景
聖書の国資料館竣工 1986.11.30



アーレント・オルガン建造
聴音中のユルゲン・アーレント夫妻
1989.5.9～1989.6.3



草刈オルガン建造と披露演奏会
右から、草刈徹夫、林祐子、一子、友雄
1987.3.29



アーレント・オルガン



シンシナティ音大バロック室内楽団
指揮とチェンバロ：橋本英二 1988.11.26



オルガン・コンサート

ミヒャエル・ラドゥレスクと一子

2001.3.20



フェスティバルとワークショップ

オルガンと合唱指揮：ヤン・エルンスト

カウンターテナーと歌唱指導：

マインデルト・ツヴァルト

1998～2006, 2008





家族で楽しむ夏休みの音楽会

チェンバロ：鴨川華子

ダンス：岩淵倫子

2012.8.24



創立 30 周年記念バッハの森コンサート

合唱：バッハの森クワイア

指揮：比留間恵

リコーダー：辺保陽一、大塚照道

オルガン：宮本とも子、鈴木由帆

2015.6.21

石田一子 オルガニスト

2008.12.30 没



(編集：古屋敷憲之)

特別会計報告(4) (2013年4月～2015年3月)

『バッハの森通信』第120号(2013年7月20日)で報告してから以後2年間の流れをご説明します。

地上権積立

2012年度に93万円あった積立は、寄付と利子を加え、9000円増えました。次期地上権更新の2024年までに144万円、2026年までに100万円を必要としているので、2026年までに毎年12万5000円ずつ積立、150万円確保する必要があります。

建物維持積立

前回報告後、建物維持積立として繰り越した52万円を、建物維持40万円、オルガン補修12万円に分離しました。建物維持の寄付は、2年間で108万円、修繕にかかった費用は55万円で、繰越額は93万円ですが、2015年度に聖書の国資料館の塗装200万円を支払ったため、現在、約100万円の赤字です。

オルガン補修積立

建物維持積立から分離した繰り越し12万円に、寄付221万円を加えた233万円の収入から修復代154万円を支払ったため、繰り越しは79万円です。

借入金と塗装計画について

石田友雄氏からの長期借入金3924万円の返済を外壁塗装資金に充てる計画は頓挫しています。

地上権積立会計(2013年4月～2015年3月)

収入	単位千円	支出	
繰越	930	支出	0
寄付	9	繰越	939
計	939	計	939

建物維持積立会計

収入	単位千円	支出	
繰越	403	修繕	553
寄付	1083	繰越	933
計	1486	計	1486

オルガン補修積立会計

収入	単位千円	支出	
繰越	125	修繕	1540
寄付	2213	繰越	792
計	2338	計	2338

(戸部慶子)

日誌(2015.7.12～10.8)

- 7.16, 23 運営委員会 参加者各4名。
7.20 メサイアを2倍楽しむワークショップ 参加者16名。
8.1～16 夏期休館
8.17 研究会(フェリス女学院大学宮本研究室) 参加者7名。
クラヴィコード調律 梅岡俊彦氏
8.20 運営委員会 参加者4名。
8.23 夏休みの音楽ワークショップ 午前の部 参加者18名。午後の部 参加者20名。
取材 柳橋香織氏(常陽リビング)。
掲載 「つくばスタイルblog」。
8.27 運営委員会(夏休みの音楽ワークショップ反省会) 参加者8名。
9.3,10,17,24 運営委員会 参加者4, 3, 4, 3名。
9.11 秋のシーズン開始
9.14 駆除 すずめ蜂の巣
9.14～16 植栽整理(駐車場設定)。
9.19～21 教会音楽ワークショップ 参加者11名、15名、14名。
9.22 発表会(辺保陽一氏主催、つくばリコーダー合宿)
9.23～28 秋期休館
10.1,8 運営委員会 参加者各4名。
J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ
コラール・カンタータ研究
コラールとカンタータ(JSB)
9.12 第391回、三位一体後第7主日のカンタータ「なげお前は悲しむのか」(BWV107);コラール「などで悲しむ」。オルガン: J. S. バッハ「御神よりわれ去ることなし」(BWV658)、海東俊恵。参加者15名。

- 10.3 三位一体後第14主日のカンタータ「イエスよ、あなたは私の魂を」(BWV78);コラール「主はわが魂」。オルガン: J. S. バッハ「主よ、私は信じます、弱い私を助けてください」(BWV78/7)、鈴木由帆。参加者13名。

学習コース

バッハの森・クワイア(混声合唱)9.12/16名、10.3/18名。

バッハの森・バロック・アンサンブル 10.3/5名。

通奏低音研究会 10.3/5名。

オルガン音楽研究会 9.18/9名、10.2/9名。

コラール研究会 9.11/6名、10.2/8名。

クラヴィコード・オルガン教室 9.18/4名。

オルガン・クラブ 9.11/3名。

読書会: 聖書 9.12/9名、10.3/7名。

オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習 7.14/1名、7.15/1名、7.16/2名、7.17/3名、7.18/1名、7.20/1名、7.21/2名、7.22/1名、7.23/2名、7.24/3名、7.28/2名、7.29/1名、7.30/1名、7.31/1名、8.18/2名、8.19/2名、8.20/31名、8.21/1名、8.25/1名、8.26/1名、8.28/3名、9.1/3名、9.2/2名、9.3/1名、9.4/2名、9.8/2名、9.9/2名、9.11/1名、9.12/1名、9.15/1名、9.16/1名、9.17/4名、9.19/1名、9.29/3名、9.30/1名、10.1/3名、10.2/1名、10.3/1名、10.6/2名、10.7/2名、10.8/1名。